

## NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名:アミカス記念祭2016
2. 実施者:(特活)NGO 福岡ネットワーク
3. 日時:2016年11月5日(土)10:00~16:00 11月6日(日)10:00~16:00
4. 場所:福岡市男女共同参画推進センター・アミカス(福岡市南区高宮3丁目3の1)
5. 参加者:約400名
6. 実施報告:

本イベントは、開催場所であるアミカスの開館日である昭和63年11月2日を記念し、「アミカス記念祭」として開催されるものである。講演会や映画の上映、コンサートのほか、市民グループによる展示・バザー・ミニセミナー、アクセサリーや布小物などのハンドメイド雑貨販売、本格スリランカカレーや、焼き菓子、コーヒーの販売も実施される。男女共同参画やアミカスのことをより多くの人に知ってもらうことを目的として毎年行われているイベントである。

このイベントは家族連れの参加が目立つため、今年は親子で楽しめるようにと当団体のインターンがやさしい国際協力クイズを準備してくれた。親子でクイズを考えている様子は微笑ましいものだった。家族連れだけではなく友人同士や一人で来た方々にも国際協力の話をするきっかけづくりにもなり、クイズから NGO 相談に繋がる自然な流れが生まれたことが今年の収穫だった。

国際協力に関心のある人たちからの質問や相談に対して様々な情報提供やアドバイスを行うことで、疑問・悩みを解消し、国際協力に関する理解を深めてもらえたのではないかと考えている。テーブルに座って待つだけの NGO 相談ではなく、こちらから仕掛ける対応を考えることで、世界の問題をより身近な問題としてすんなりと聞いてもらえるきっかけ作りもなったのではないと思った。

身近な問題を通すことで、「へ～そうなのか」という来場者の感想が聞かれ、多くのみなさんと対話できた2日間だった。来場者には NGO 相談員のチラシを配布し、宣伝を行った。

### 7. 別添(写真)



クイズを通して理解を深める



子どもの関心を引き付けて親に伝える

## NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：国際協力人材セミナーin 北海道  
NGO セッション～NGO で働くということ～(形態:講演/相談)
2. 実施者：岡田朋子（一財）北海道国際交流センター
3. 日時：2016年11月12日（土）13：15～16：00
4. 場所：北海道大学 札幌キャンパス内 高等教育推進機構  
(住所) 札幌市中央区17条西8丁目
5. 参加者：26名
6. 実施報告：

JICA 主催の国際協力人材セミナーin 北海道において「NGO で働くということ」というテーマでお話しをさせていただいた。参加者は学生が多いのかと推測していたが、ほとんどが社会人でまた NGO や国際協力に対してとても意識が高い方が多く、用意していた発表の内容が基本的なものが多く参加者が望んでいた発表になっていたかは疑問に残るところではあったが、後半に事例として「飛んでけ車いすの会」の活動を発表してもらい、NGO の活動について具体的なイメージを持ってもらうことができた。その後のフリーの相談窓口では、NGO に興味があるがどうしたら活動に参加することができるかなどの質問があり北海道内の NGO の活動を紹介した。また学生で海外ボランティア興味があり、NGO のボランティア活動に参加したいがどのような内容なのかという相談もあり、積極的に NGO に関わりたいという方もいてより広く NGO の活動を知ってもらう機会になった。

7. 別添（写真）



## NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：環太平洋大学次世代教育学部国際教育学科「国際教育指導特論」（形態：講演）

2. 実施者：佐藤幸江（特活）AMDA 社会開発機構

3. 日時：2016年11月15日（火）10：30～12：00

4. 場所：環太平洋大学第一キャンパス、

フィロソフィア第一講義室（岡山市東区瀬戸町観音寺721）

5. 参加者：24名

6. 実施報告：

開発途上国の現状と国際協力活動とその方法について講演を行った。

具体的な内容としては、外務省のホームページを参考に、国際社会

（特に開発途上国）と日本のつながり、NGO（市民団体）が行う国

際協力の事例として、当団体やそのほかのNGOが行う活動を紹介し

た。加えて、学生がすぐにできることとして、岡山県内外のボラン

ティア、インターンや国際協力イベントの紹介、過去に学生が関わ

った活動の事例紹介などを行った。

受講した学生全員が1年間の海外留学の経験を持っており、質疑

応答では、多くの質問が寄せられ、国際協力に対する関心の高さが伺えた。今後、国際協力への取り組みの参考となる情報を提供できたと考える。

## 7. 別添（写真）



平成 28 年 12 月 9 日

## NGO 相談員による出張サービス実施報告

特定非営利活動法人 難民を助ける会

企画名： 「アフガニスタンの地雷問題と地方の学校から発信する国際協力」

開催期間： 平成 28 年 11 月 18 日（金）～20 日（日）

主催者： 特定非営利活動法人 難民を助ける会

場 所： ①愛媛県松山市、②宇和島市、③宇和島市立九島小学校

出張者： （正・副・その他）

特定非営利活動法人 難民を助ける会 穂積 武寛

同

バシール・バーセル

参加者： ①特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク、宇和島市教育委員会、  
宇和島市社会福祉協議会、各数名

②宇和島市立九島小学校 生徒・卒業生 25 名、教職員 8 名、一般参加者  
約 80 名

### 実施内容：

#### 1. 宇和島市立九島小学校での報告会（19 日）

九島小学校の昨年度の 5 年生および 6 年生は、アフガニスタンの地雷問題について学習ならびに募金活動を行ったうえに、アフガニスタンの子どもたちに向けて写真・絵入りのメッセージ作成を行った。これを現地の子どもたちに紹介したところ、自分たちもお礼をしたいとして、計 50 名のアフガニスタン人児童が同様のメッセージを作成した。

今般、当会のカブール事務所スタッフが研修のため来日する機会を捉え、同校を直接訪問してメッセージを届け、感謝の意を表する機会とした。

19 日に、全校生徒および昨年度の 6 年生を合わせた計 25 名を対象に報告会を開催した。当会カブール事務所スタッフより、事業の概要や、現地の子どもたちが日本からのメッセージを喜んでいる様子などを紹介した。子どもたちからは「なぜ女の子がみんなスカーフをかぶっているのか」など、見知らぬアフガニスタンについて様々な質問が出た。

最後に、アフガニスタンからのお礼のメッセージを直接手渡した。

本報告会には、宇和島市教育委員会の野田学校教育課長が同席したほか、愛媛新聞の取材が入り、翌日にはカラー写真入りの記事となった。

## 2. 宇和島市立九島小学校学習発表会への参加（20日）

翌20日は同小学校体育館において、地域住民も招いての恒例の学習発表会が開催され、今回のアフガニスタンの地雷問題への取り組みと、現地の子どもたちとの交流がプログラムのひとつとして披露された。当会スタッフも壇上にあがり、地域ぐるみで募金等にご協力いただいたことに対し感謝の意を述べた。会場の壁にはアフガニスタンからのメッセージ50枚が和訳とともに展示され、参加者は興味深そうに見入っていた。

## 3. 宇和島市関係者等との協議（18日、19日）

九島小学校でのイベントに先立ち、松山市内の特定非営利活動法人えひめグローバルネットワークの事務所を訪問し、高山事務局長補佐に本件について説明した。高山氏には宇和島での一連のイベントにも同行いただいた。

宇和島では、同市教育委員会の織田教育長、社会福祉協議会の石崎常務理事、渡辺事務局次長らに面会し、本協力案件について説明する機会を得た。社会福祉協議会では、来年2月頃に同協議会事務所を置く宇和島総合福祉センタービル1階ロビーにおいて、アフガニスタンの子どもたちのメッセージの展示会を、無償で開催していただけることになった。

### 所感：

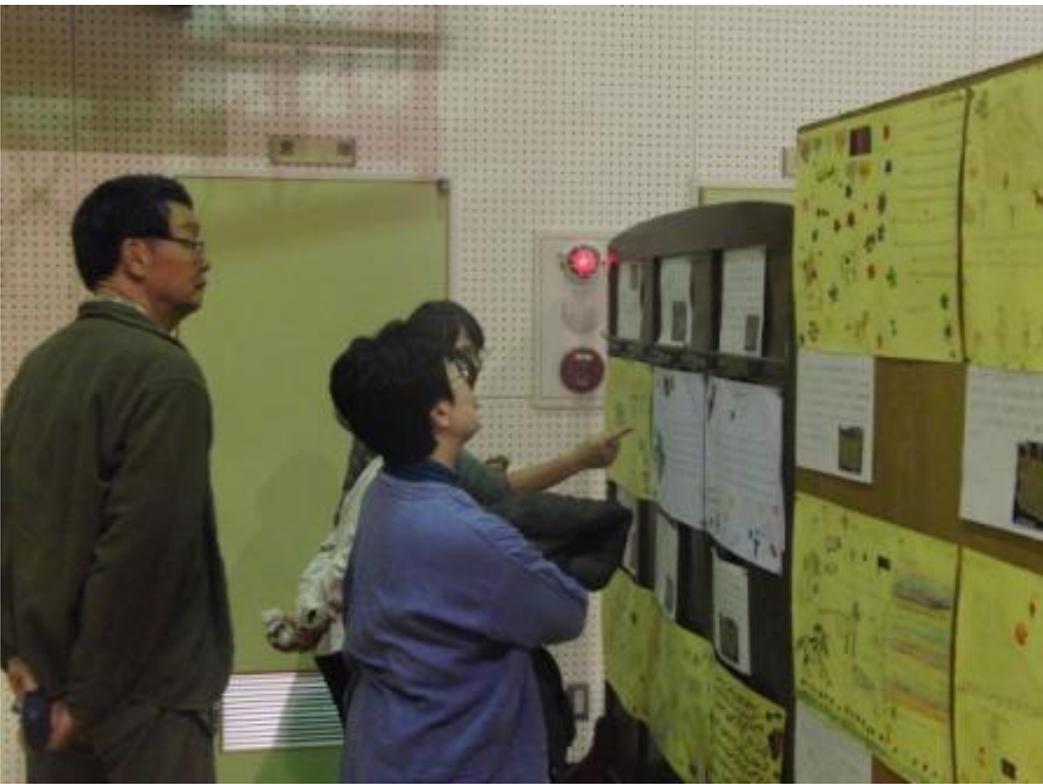
今回の九島小学校の取り組みは多くの点で注目に値する。第一に、単なる学習に終わらせずに、募金活動やメッセージ作成などの具体的取り組みにまで発展したこと。これに関しては、子どもたちの熱意もさることながら、それを後押しした同小学校の芳谷教諭ならびに松廣校長の意識の高さがあったからこそである。

第二に、取り組みの対象国が世界で最も不安定かつ危険な国の一つであるアフガニスタンだったことである。アフガニスタンの抱える問題に対して何ができるのか、というプロの支援団体でも難しい問題に小学生が向き合い、自分たちなりのアプローチを生み出したことは特筆に値する。「誰でも、日本のどこにいても国際協力はできる」とは、多くの学校に対して常日頃発しているメッセージであるが、九島小学校の一連の取り組みはその具体例として、他校にとっても大いに刺激となるものである。

九島小学校は来年3月に宇和島市内の小学校と統合が決まっているが、昨年から本件を指導してきた関係者からは「今後もアフガニスタンとの関係を続けていきたい」との発言があり、当会としてもサポートをしていきたい。

写真





平成 28 年 11 月 20 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

(団体名)公益財団法人PHD協会  
理事長 水野 雄二

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名:「第15回NGOスタディツアー合同説明会」  
※出張形態:相談対応ブース
2. 出張者:坂西卓郎((公財)PHD協会職員)  
榛木恵子(特定非営利活動法人関西 NGO 協議会)
3. 実施日:2016年11月19日(土)13時30分～17時00分
4. 場所:キャンパスプラザ京都 2階ホール  
(京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路939)
5. 対象者 :一般、学生88名
6. 実施報告: 龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター、株式会社マイチケット、特定非営利活動法人 関西 NGO 協議会が主催する NGO 合同(14 団体)によるスタディツアー説明会に NGO 相談員ブースを出展し、関西 NGO 協議会、PHD 協会の2団体で相談対応を行った。プログラムはスタディツアーに関するミニセミナー、各ブースでの個別相談、プレゼント抽選会であった。  
関西を中心とした 14 団体が集まったことで、スタディツアーに興味がある人たち以外にも NGO や国際協力に興味を持つ学生などが集まったので、スタディツアーに関すること以外の相談も多く、総数14件の相談に答えた。詳細は各団体の報告に記載させていただくが、ツアー関連以外には、NGO 職員の待遇や、国内事務職員が必要とされるスキルなど、就職に関する相談が多かった。また主目的であるスタディツアーに関しても「貧困に興味があるのだが、どこのツアーに行ったらよいか」など、各ブースに出展する前に情報を聞きに来る方もおられ、本イベントに相談員ブースを出展したことで、ツアー参加希望者と NGO のマッチングなどに寄与することができた。  
全体的な所感としては、京都という学生が多い地域で、かつ JR 京都駅前という好立地もあり、学生が多く参加しており、NGO 相談員が参加していることを認識してもらう意義は大きかったと感じる。個別相談の際に NGO 相談員事業の説明を必ずしたが、「外務省と NGO の連携」が身近なレベルで行われていることに驚く学生も少な

からずいた。一方、NGOにも同制度のPRになったということも成果の一つと言えるだろう。

7. 添付画像:別紙に当日の様子を4枚添付



①第15回NGOスタディツアー合同説明会 全体の様子

②第15回NGOスタディツアー合同説明会の プログラム及びレイアウト



③15回NGOスタディツアー合同説明会での 相談員ブースの様子

④15回NGOスタディツアー合同説明会での 相談員ブースの様子

## NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：講演会 「世界の子どもたち」
2. 実施者：特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン 松本謡子
3. 日時：2016年11月22日（火）13:30-15:30
4. 場所：埼玉県上尾市立原市中学校 埼玉県上尾市大字原市 3479
5. 参加者：中学1年生 187名、教員 7名
6. 実施報告：

総合的な学習の授業の一環として「世界の子どもたち」と題して講演を行った。これまでに「世界がもし100人の村だったら」ワークショップを実施され、地球規模課題に関心を高めつつある生徒の皆さんへ NGO の視点で情報提供を行い、その後に予定される調べ学習で一人ひとりが自主的に研究テーマを選定できるために、広く世界の子どもたちを取り巻く課題を紹介してほしいとの希望を受けていた。導入では、地球規模課題である水衛生、保健・栄養、教育等の現状についてクイズで紹介し、様々なテーマに目を向けるように導いた。次に、6名のグループに分かれグループごとに3枚の写真を使った「フォトランゲージ」のワークショップを行った。各グループのケースストーリーはアジア、アフリカ、中東等の男の子や女の子の日常生活を映し出しており、児童労働や紛争によって厳しい現状を生活している子どもたちの日常生活を取り上げた。グループの中で写真を見て気が付いたことを付箋に書き出し写真に貼り付け、白紙を使って「マッピング」を行い、全体で共有した。さらにそれぞれのケースストーリーで取り上げた子どもたちの抱える課題を3点に絞り、解決先をグループごとに話し合った後、全体で共有を行った。NGOとして実施している地域開発や緊急人道支援について紹介し、今後の調べ学習の中で積極的に世界に目を向けてほしいと伝えた。

### 7. 所感：

グループワークを通して大変積極的な意見交換が行われた。「フォトランゲージ」や「マッピング」ではこちらが想定していた以上の多くの気づきや発見があり、生徒たちは楽しそうに参加してくれていた。体験型の手法が国際理解の授業の中で有効であると改めて実感した。

### 8. 別添（写真）

- 左：グループごとに「フォトランゲージ」に取り組み気が付いたことを付箋に書き出した  
右：課題と解決策について全体で共有を行った。積極的な発表が多数あった。



## NGO相談員による出張サービス実施報告書

1. 企画名：「中東地域における国際協力 NGO の役割～イラクの事例から」  
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】
2. 実施者：池田 未樹（特活日本国際ボランティアセンター・イラク事業担当）
3. 日時：平成 28 年 11 月 22 日（火）1 限 9:20-10:50、2 限 11:00-12:30
4. 場所：摂南大学
5. 参加者：外国語学部と経営学部 1 限 約 40 名 2 限 約 170 名
6. 実施報告：

### ① 概要

摂南大学では、主に 1、2 年生を対象に「世界の地理」（外国語学部対象）と「地誌学」（経営学部対象）という科目を設けており、世界の地理に対する学生の理解を深める一環として、開発途上国の現状と、ODA や NGO によるさまざまな国際協力活動について知るための授業をしている。今回、上記授業で中東地域における紛争の現実や、日本の NGO が現場で行っている平和構築活動や人道支援活動について扱うこととなり、日本と中東地域の関わり、日本の NGO による支援活動、復興と紛争後の諸課題とそれに対するイラク現地 NGO の取り組みにも触れることで、日本の国際協力活動の果たす役割について関心喚起を行なうこととなった。

当日は、企業から NGO に転身したスタッフ自身の自己紹介を交え、国際協力に関わる動機について話すことでの関心喚起を行った。その後、当団体の活動経験を事例として取りあげつつ、日本の NGO による中東地域への関わりを紹介した。また、イラクの現地 NGO が実施している、紛争の影響を受ける人々を対象にした地域の「共生」に向けたプログラムを説明し、そのプログラムのなかで実施している非暴力ワークショップの一部を実際に学生に体験してもらうことで、より理解を深められる講座とした。

### ② 所感

参加した学生からは、「イラクに対して何の関心も知識もない」「イスラムの人達は日本人に比べて暴力的だ」という意見が出たほか、「現地 NGO の活動を知ったことで、イスラムやイラクに対してのイメージが変わった」という感想が寄せられた。これから社会に出る若い層が、日常的に接している報道だけでなく、より広く国際的な情報に触れる機会をつくること必要がある。また、そもそも国際協力に関心の低い学生に対しては、国際情勢よりも自身の経験を話すことに時間を割き、より身近に感じてもらうことが重要と感じた。

以上

## 7. 別添（写真）



イラクの現地キルクークのNGOの活動例として、多民族の子どもが参加する「平和ワークショップ」について説明



イラクの地理や歴史について説明



現地でも実際に行われている非暴力トレーニングに関するワークを体験してもらう



イラクに対するイメージが変わったという感想も出た

平成 28 年 12 月 10 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人アイキャン  
代表理事 田口 京子

### NGO 相談員出張サービス実施報告書

NGO 相談員による出張サービスを実施いたしましたので、下記の通りご報告致します。

#### 記

1. 企画名：三重県における NGO 相談員アウトリーチ活動（形態：セミナー）
2. 実施者：特定非営利活動法人アイキャン 中村由実子
3. 日時：2016 年 11 月 24 日（木） 11:00～17:00
4. 場所：①アスト津 3 階オープンスペース（三重県津市羽所町 700）  
②三重県庁本庁 8 階（三重県津市広明町 13 番地）  
③公益財団法人鈴鹿国際交流協会（三重県鈴鹿市神戸 1 丁目 17 番 5 号 市役所別館第 3）
5. 対象者：①JICA 三重県デスク：1 名、三重県国際交流財団：1 名、三重県環境生活部多文化共生課：1 名、みえ NPO ネットワークセンター：2 名（計 5 名/4 機関）  
②三重県雇用経済部国際戦略課：1 名  
③公益財団法人鈴鹿国際交流協会：2 名

#### 6. 実施報告：

各訪問先において、NGO 相談員制度の概要や相談内容等の傾向、活用方法、他団体も含めた相談対応の事例の紹介に加え、以下のような意見交換を行った。

#### ① JICA 三重県デスク、三重県国際交流財団、三重県環境生活部多文化共生課、みえ NPO ネットワークセンター

－今年度に関して、各機関から相談員広報を行っていただくこととなった。また、みえ NPO ネットワークセンターから、伊勢志摩サミット後に発足したネットワークや三重大学のサークル等の、JICA 推進員からは、大学の教授や県内の他の国際交流団体等の紹介を受け、事務所に戻り次第、各機関や個人に相談員広報のアプローチを行う事となった。

－4 機関が協働で毎年 12 月に実施している多文化共生イベントにて、来年度相談員ブース出展の依頼を受けた。来年度の受託団体については決定していないため、情報は取得しつつ、正式には来年度受託した場合に再度協議をさせていただくこととなった。

#### ② 三重県雇用経済部国際戦略課

－国際戦略課では、三重県出身の青年海外協力隊員が「みえ国際協力大使」として、海外での活動中に三重県の広報誌を通じて現地の状況を伝えている。そのため、まずは、「みえ国際協力大使」のネットワークを活用し、NGO 相談員の周知を行ってくださることになった。特に帰国後の就職相談に対して、ニーズが高いものと思われた。同制度では、大使が赴任している海外の人々が必要としている物品を、三重県が広く募集しているが、集まりが悪いとのことで、効果的な物品寄付の集め方について相談を受け、当団体の例をもとに説明した。

#### ③ 公益財団法人鈴鹿国際交流協会

－広報協力として、今後事務所に来られる一般の方に周知していただくことになった他、同協会の

Facebookにて相談員広報を行ってくれることになった。(写真参照)

- 連携が可能なイベントについて同協会が毎年4月に実施しているイベント(来場者3,000人規模)を打診して下さったが、相談員の契約上、実現可能性が低いことを伝え、引き続き情報交換を行っていくこととなった。
- 同協会から企業連携に関して相談があったため、協会が参加可能な各種研修を伝えるとともに、今後、当団体から随時情報を提供していくこととなった。

## 7. 写真

①JICA 三重県デスク、三重県国際交流財団、  
三重県環境生活部多文化共生課、  
みえ NPO ネットワークセンター



②三重県雇用経済部国際戦略課



③公益財団法人鈴鹿国際交流協会



鈴鹿国際交流協会の Facebook (2016/11/25)



## ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2016 おける NGO 相談員ブース出展 出張サービス報告書

**実施団体：**(特活) 開発教育協会/DEAR

**日時：**2016年11月26日(土) 10:00~17:00

**場所：**国立オリンピック記念青少年総合センター国際会議室(東京都渋谷区代々木神園町3番1号)

**事業名：**ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2016

**主催団体：**ESD 活動支援センター

**実施内容：**相談対応(ブース出展)

ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2016において、開発教育や持続可能な開発のための教育(ESD)、国際理解教育に関する相談ブースを出展した。開発教育や ESD、国際理解教育、教材や資料等に関心のある全国の教員や自治体職員、市民団体、学生等からの相談や照会を受けた。

### 所感および効果：

フォーラムには、ESD 活動支援センターが立ち上がって最初の会合だったこともあり、教育関係者、自治体関係者を中心に全国から約 200 名の参加があった。ステージでは ESD に関するシンポジウムが行われ、そこに、当会の代表も司会として登壇した。会場の後ろに相談員ブースを出展し、休憩時間等に、ESD や開発教育に関する相談や照会を受けた。

岡山県の教員からは、小学校でできる ESD や開発教育の教材やプログラムについて質問があり、具体的な教材などを見せながら、相談に応じた。大阪府の大学生からは大阪の国際協力のイベントについての質問があり、大阪の団体の紹介やワンワールドフェスタ等の紹介を行った。

その他、自治体関係者、教育委員会などからも、ESD のプログラムや教材、NGO 等の団体やイベント等の相談があり、高い関心が伺えた。全国から参加者が集まっていたので、NGO 相談員制度と各地の相談員について広く告知することができたのは有意義だった。



## NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：JICA 海外ボランティア募集説明会における出張相談  
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ワークショップ）】
2. 実施者：高山 莉菜（特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク）
3. 日時：平成 28 年 11 月 26 日（土）14:00～16:00
4. 場所：コムズ 5 階大会議室（愛媛県松山市三番町 6 丁目 4-20）
5. 参加者：一般参加者約 40 名
6. 実施報告：国際協力や国際交流などのボランティアに関心ある市民が参加する講座で相談員ブースを出展した。前半は全体会で各団体の活動紹介が行われ、参加者全員に NGO 相談員制度のチラシを配布し本制度の説明や、これまでに実施した出張サービスの内容について紹介することで活用を呼びかけた。また、後半の個別相談では、中学生、大学生、社会人など 7 名より NGO 相談員制度や四国の国際協力活動、ボランティアの受け入れ、開発教育の取り組みなどに関する質問・相談があり、相談員のチラシ、冊子「四国・国際協力団体と ODA」など関連資料を活用しながら情報提供・相談対応を行うことができた。

### [主な対応内容]

- ① **相談内容** 教育学部の授業で ESD について学んだことがある。松山市内での具体的な事例があれば情報提供してほしい。  
**対応** ユネスコスクールでの国際理解教育・ESD の取り組み事例を紹介した。また、グローバル・ローカルからたの作成過程にも小学生から大学生までの多くの学生が関わったことを紹介した。
- ② **相談内容** 愛媛県内で国際協力活動を行っている団体は他にあるのか。どのような団体があるか教えてほしい。  
**対応** 冊子「四国・国際協力団体と ODA」の団体の活動紹介ページの内容を確認しながら、県内の国際協力団体について紹介した。また、冊子の中に国際交流・国際協力を行っている団体のリストが掲載されていることも確認し、関心のある団体があるか参考にしてもらうこととした。

## 7. 別添（写真）



全体会で相談員制度について紹介



相談対応ブースの様子

平成 28 年 11 月 30 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

(特活)国際協力 NGO センター  
理事長 谷山博史 印

### NGO相談員による出張サービス実施の報告

NGO相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたので、ご報告申し上げます。

#### 記

1. 企画名:国際開発学会大会 第 27 回全国大会
2. 出張者氏名:水澤恵
3. 主催団体名:国際開発学会
4. 実施日時: 平成 28 年 11 月 26 日(土) 10:00-18:15  
11 月 27 日(日) 9:30-16:45
5. 実施場所: 広島大学東広島キャンパス  
(〒739-8511 広島県東広島市鏡山1丁目3-2 教育学部 K 棟 109教室)

#### 6. 実施内容と効果・所感

##### 1)実施内容

国際開発学会の大会は、様々な開発課題への対応や国際協力のあり方を研究し、議論する場として開催されており、当日は国際開発学会の学会員を中心に、大学教員、学生、援助関係者など、来場者約 250 名に対応した。

当センターは相談員ブースに1名を配置し、国際協力 NGO の活動や提言内容の紹介、国際協力 NGO や SDGs(持続可能な開発目標)に関する資料の提供などの相談対応を実施した。相談員ブースとは別会場で開催の各セッションの終了時やお昼休みなどは、多くの学会参加者が相談員ブースを訪れた。以下、対応詳細。

- ・ 相談対応件数:25 件
- ・ 主な相談者層:国際協力分野の大学教員、学生、援助関係者
- ・ 主な相談内容:
  - NGO の活動を授業で紹介する際の教材について
  - NGO の概要や組織について

- NGO の提言内容について
- NGO の国際協力および東日本大震災での活動について
- NGO でのボランティアについて
- 持続可能な開発目標(SDGs)について

## 2) 所感

- ・ 大学教員からの相談が多く、国際協力をテーマにした授業や調査研究で使える資料を探している方が多かった。NGO の理解者・支援者を増やすうえで、大学教員の役割は大変重要なので、本学会のような場で NGO の情報提供をすることは重要と考える。持参した NGO の資料では、特に JANIC が作成した「NGO ガイド」「NGO データブック 2016」及び JANIC が作成協力した「私たちが目指す世界:子どものための持続可能な開発目標」が好評だった。
- ・ 本学会において NGO のブース出展をしたのは JANIC のみだったので、本学会に所属する役職員がいる、他の NGO の活動内容や提言書、機関紙等も配布をすることで NGO セクター全体の PR を行った。なお、本学会において JANIC はブース出展のみを行い、セッションでの発表はしなかった。今後は、ブース出展と、JANIC の調査・提言内容を本学会のセッションでの報告の双方を行うことが、NGO の理解促進を図るうえで有効と考える。
- ・ 今後も継続的に本学会のような場で、国際協力分野の研究をしている教員や学生、援助関係者の相談に対応して NGO についての情報を伝えることは、本出張サービスの重要な役割と言える。

## 7. 交通費精算:月次請求

## 8. 相談対応の様子



以上

## 外務省 NGO 相談員 出張サービス報告書

相談員 公益社団法人 日本国際民間協力会 (NICCO)

### <概要>

企画名：京都文教大学 国際協力論講義

イベントの種類：講演

実施日時：平成 28 年 11 月 30 日（水） 10 時 40 分～12 時 10 分

出張者氏名：大豊 盛重

主催：京都文教大学 総合社会学部 島本研究室

場所：京都文教大学

〒611-0041 京都府宇治市槇島町千足 8 0

### <実施内容>

京都文教大学の講義「国際協力論」にて、大豊がゲスト講師として登壇した。国際協力や開発における NGO の役割と課題について講演を行なった。内容は、NGO とは何か、市民活動の歴史や役割、課題などを、弊会の活動を具体例として挙げながら紹介した。講演後は、NGO や国際協力、インターンやボランティア、進路などに関する参加者からの相談を受け付けた。

京都文教大学の学生や社会人を対象として、NGO や国際協力に対するより一層の理解と参加の促進を達成できた。

### <集客人数または相談対応件数>

講演：25 名

### <所感及び効果等>

今回講演を実施した講座では、前段階として国際協力や海外の NGO について講義を受けており、それを受けて日本の NGO や市民活動の役割や実際の活動について解説し、当会が日本 NGO 連携無償資金協力で行ったマラウイでの村落開発事業をモデルに講演を行った。質疑応答では、参加者から、日本の循環型農業の発想をアフリカで導入したことについて、高い関心をいただき日本の NGO の独自性を理解いただけたと感じた。

<活動風景（写真記録）>



講演の様子。現地の写真を使って講義を行った。